

くらぞうみやた
蔵増宮田遺跡発掘調査説明資料

公益財団法人山形県埋蔵文化財センター 平成 24 年 9 月 22 日

調査要項

遺跡名(番号)	蔵増宮田遺跡(登録番号 210-152)		
所在地	山形県天童市大字蔵増		
時代・種別	古墳時代 集落跡		
起因事業	主要地方道天童大江線 道路改築事業		
調査依頼者	山形県村山総合支庁建設部道路課		
調査機関	公益財団法人山形県埋蔵文化財センター		
現地調査	平成 24 年 6 月 4 日から 10 月 16 日まで		
調査面積	2,230㎡		
調査担当者	主任調査研究員	齋藤健(現場責任者)	
	調査員	渡邊安奈	
調査成果(9月22日現在)			
検出遺構	古墳時代：河川跡	溝跡	土坑 ピット
出土遺物	古墳時代：土師器	須恵器	木製品



図1 遺跡位置図(1/25,000)

1 調査の概要

蔵増宮田遺跡は、天童市東部の、最上川右岸部にあり、乱川扇状地と立谷川扇状地にはさまれた沖積地上に立地します(図1)。

遺跡のすぐ南には、国指定史跡西沼田遺跡、

倉津川西岸には、蔵増押切遺跡、板橋1遺跡、板橋2遺跡、的場遺跡などの東北中央自動車道建設時に発掘調査された古墳時代の遺跡が多数存在する地域です。

また、遺跡のすぐ北側には中世に倉津氏の居館を中心に発展した蔵増集落があります。

今回の調査は主要地方道天童大江線の改築工事に伴うもので、県文化財保護推進課の分布調査により遺構と遺物の確認された範囲を調査しました。

6月から始まった調査では、重機で遺構を確認できる深さまで表土を除去した後、手作業で土を削って(面整理作業)、河川跡などの遺構を確認しました。その後、遺構を掘り下げ、出土した土器や木製品等の遺物の出土状況を図面や写真に記録していきました。

2 見つかった遺構と遺物

今回の調査では、A区から古墳時代の河川跡が2本検出されました。

河川跡は南北方向に流れていました。東側のSG03河川跡は幅15mほど、深さは1.8mほどです。自然木のほか、加工痕がある板材や杭材、鍬や鋤といった農具、皿などの木製品やそれらの加工時に発生したと思われる削りカスが多く出土しました。他にも高坏や甕といった古墳時代中期の土師器も出土しています。

西側のSG02河川跡は幅10mほど、深さ0.2mほどです。甕や壺、坏、高坏などの古墳時代中期の土師器が出土しています。また、これらの堆積状況から、2つの時期があることを確認できました。

2本の河川跡は隣接して存在し、堆積状況を観察すると、SG03河川跡が古く、埋まった後にSG02河川跡が形成されたことがわかりました。

また、A区西側から東側にかけて、地形が一段低い箇所がありました。断面をよく観察すると、ほぼ水平に堆積した3つの粘土質の層を観察することができました。真ん中の層には、平安時代(915年)に噴火したと考えられている十和田火山の火山灰とみられる堆積物を観察でき、少なくとも真ん中の層は10世紀初頭の時期であることがわかります。

また、その東端の下層から古墳時代の須恵器や土師器が多数出土しています。

3 まとめ

調査の結果、蔵増宮田遺跡は古墳時代中期の遺跡であることがわかりました。

検出された遺構は河川跡と古墳時代の土器が出土する低地の他、少数の土坑やピットなどでした。しかし、河川跡からは貴重な木製品のほか、多くの土器が出土しました。

土器の特徴から、近くにある古墳時代後期の国指定史跡西沼田遺跡より古い古墳時代中期で、東北中央道建設時に天童市周辺で調査された遺跡とほぼ同時期とみられます。

今後、遺構や遺物を詳細に検討し、遺跡の性格をより明らかにしたいと思います。



写真1 SG03河川跡出土 RP1 土師器甕

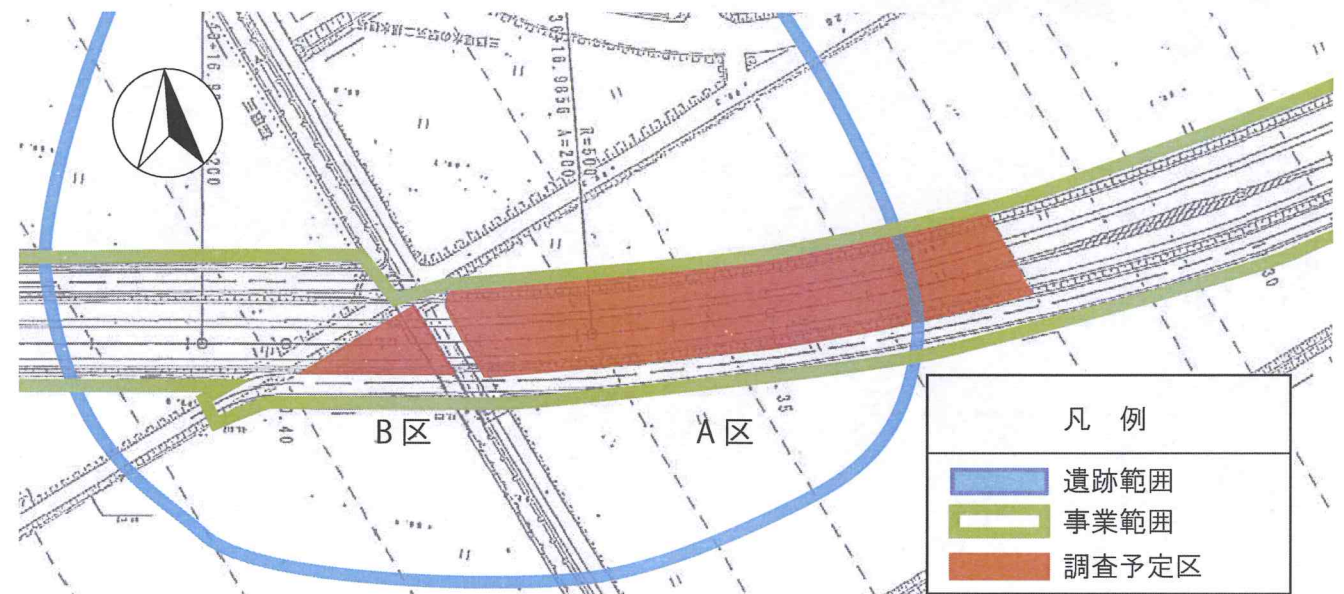


図2 調査区概要図(1/1,500)